



かんがえる
がばさる
んがえ
かき
がき

時津町立鳴鼓小学校
学校だより R6年度第14号

令和7年1月10日
文責：校長 今井大輔

2025年始動

新年あけましておめでとうございます。
輝かしい新年の幕開けにあたり、心よりお祝
い申し上げます。

さて、子供たちは冬休みを元氣いっぱい
過ごし、新しい年、新しい学期のスタートに
あたり、どの学級からも子供たちの明るい声
が響き渡り、活気あふれる一年の始まりを感
じています。

鳴鼓小学校の教職員一同は、子供たちが心
身ともに健やかに成長し、大きく羽ばたくこ
とができるよう、精一杯の力を尽くしてまい
ります。保護者の皆様におかれましても、本
年も変わらぬご支援とご協力をお願い申し上
げます。

鳴鼓小学校が、子供たちにとって学びと成
長の場として、そして地域に開かれた学校と
して、さらに発展していくよう、教職員一同
力を合わせて取り組んでまいります。

夢を語る子へ

始業式で「夢」の話をしました。有名なス
ポーツ選手（大谷選手、本田選手）や作家（J
・Kローリングさん）を例にあげました。多
くの大人が小学生時代から夢描いていた目標
に近づくように努力した結果、目標を達成し
て、今に至っていることを語りました。

ワールドカップでMVPとなった澤穂希選
手の「夢は見るものではなく、叶えるもの」
という言葉も紹介しました。

式の中で「今、自分の夢がある人？」と尋
ねたところ全校の10分の1ほどの手が挙が
りました。少し寂しい気がします。子供の時
は、「夢」「希望」を抱いて日々を過ごしてほ
しいと、私自身は常日頃から思っています。
まずは、私たち大人（教師や親）が夢を語る
ことが大事だと思っています。

メディアと上手に付き合うために

9日（木）の5校時、6年生は、メディアリテラ
シーに関する特別授業を受けました。講師の田口雅
一先生（鳴北中）からは、ゲームやSNSなど、子
供たちの生活に欠かせないメディアとの付き合い方
について、具体的なアドバイスをいただきました。
グループワークでは、友達との意見交換を通して、
メディアのメリットだけでなく、使い方によって生
じる問題点についても理解を深めました。急速に変
化する情報社会の中で、子供たちが賢くメディアを
活用できるよう、今後様々な取り組みを進めてい
きます。

（子供たちの感想を一部抜粋して紹介します。）

スマホはとても便利だけど、使い方を間
違ったら、知らない人とながつて、事件
にまきこまれたり、フェイク動画など、う
その情報を信じてしまうかもしれないか
ら、正しい使い方をしていきたいです。

（6の2 笹田さん）

メディアに依存してしまっていると、友達と遊
ぶ時間が減ったり、ご飯よりもスマホやゲ
ームなどを優先してしまったりなど、生活
にとても支障がでてしまうことが分かりま
した。

（6の1 吉原さん）

おんのりほねり！

1月5日、左底地区の伝統行事である鬼火焚きが盛
大に開催されました。地域の方々の温かいおもてなし
のもと、子供たちも笑顔で参加し、楽しい時間を過ご
しました。12日には、久留里地区でも同様のイベン
トが予定されています。地域の伝統文化に触れる絶好
の機会ですので、ご家族皆様で参加してみてもどうで
しょうか。



つばやき

5年前から時津町では、年
末に小中学生による「イン
グ」が行われている。先月も
行われ、小学校の部では、鳴
鼓小6年 鶴木さんが、素晴
しいスピーチで県大会出場を
決めた。

そのコンテストの開会式
の中で、必ず相川教育長が、「こ
れからのグローバル社会で
は、英語力が必要になる。時
津町は英語力向上に力を入
れている。」と話される。

私は、この冬休みにその現
実を痛感させられた。これま
では、英語が母国語でない国
の旅では、英語が母国語でな
頼りに通訳しながら、さほ
かし、せしむるに英語圏の国
に行くと、久しぶりに英語圏
底太刀打ちできなかつた。
ショッピングモールで出会
った10歳くらいの少女やコ
ンビニの店員から「なぜ、英
語がスラスラ話せないの？」
「どうして言っている意味が
分からぬの？」という顔を
され、舌打ちまでされた。自
分の口から適切な言葉を発
することができないので、反論
すらできないもどかしさを味
わって帰国した。（それも旅
の楽しさなのだが...）

子供たち（3年生以上）は、
ALTや英語専科からネイテ
ィブな英語で学んでいる。き
つと将来は、私よりも話せる
ようになることだろう。いや、
私も負けず、次回の旅に向
けて少しはがんばってみよう。